HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	これまでのフォーラム
Relation	第6回 人文・社会科学系研究推進フォーラム報告書 これまでのフォーラム
Issue Date	2021-03-29
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/83456
Type	other
File Information	JF6_hokudai_4_aboutForum.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

これまでのフォーラム

人文・社会科学系研究推進フォーラムについて

人社系フォーラムは、人文・社会科学系の研究に関わる研究者やURA、事務系職員、行政機関、資金配分機関の関係者等が、よりよい研究推進のあり方をともに議論し、ともに行動することを目指して、2014年に発足した。フォーラム等の企画・運営は、「人文・社会科学系URAネットワーク幹事校」のURAによって行われている。参加校は、大阪大学、京都大学、筑波大学、早稲田大学、琉球大学、北海道大学、横浜国立大学、中央大学に加え、2020年12月から広島大学が加わり、9校となっている（2021年3月現在）。

（所属、職位等はフォーラム開催当時）

第1回

開催日　● 2014年12月22日　　幹事校　●大阪大学

｜テーマ｜

人文・社会科学系研究推進に必要な共通基盤整備を考えよう

｜基調講演｜

西尾章治郎

（文部科学省　科学技術・学術審議会　学術分科会　学術の基本問題に関する特別委員会（第7期）主査）

｜人社系研究者からの話題提供｜

村上　宏昭（筑波大学人文社会科学研究科・助教）

出口　康夫（京都大学文学研究科・准教授）

松林　哲也（大阪大学国際公共政策研究科・准教授）

｜グループディスカッション｜

「日本の人文・社会科学系研究を支える共通基盤とは？」

参加者数……84名（URA44名、研究者21名、事務系職員13名、その他の研

究支援職等 6 名）

開催報告 URL……https://www.ura.osaka-u.ac.jp/uramagazine/vol_017.html

第 2 回

開催日　● 2016 年 3 月 17 日　　幹事校　●筑波大学

| テーマ |

人文・社会科学系研究推進の三手先を考える

| 基調講演 |

吉川　　晃（筑波大学理事・副学長）

本多　史朗（トヨタ財団・チーフプログラムオフィサー）

| 人社系研究者からの話題提供 |

辻中　　豊（筑波大学人文社会国際比較研究機構・機構長／教授）

中川　　威（大阪大学人間科学研究科・助教）

天野　正博（早稲田大学人間科学学術院・教授）

| グループディスカッション |

「人社系研究の 3〜5 年先の施策を考える」

参加者数……60 名（URA40 名、研究者 14 名、事務系職員や助成機関等 6 名）

開催報告 URL……https://icrhs.tsukuba.ac.jp/archives/4758/

第 3 回

開催日　● 2017 年 3 月 3 日　　幹事校　●琉球大学

| テーマ |

地域と共に新しい“ジンブン”力を創造する人社系研究の展開

| 基調講演 |

西田　　睦（琉球大学理事・副学長）

| 人社系研究者からの話題提供 |

貴志　俊彦（京都大学東南アジア地域研究研究所・教授）

稲場　圭信（大阪大学人間科学研究科・教授）

志田　泰盛（筑波大学人文社会系・准教授）

| グループディスカッション |

セッション 1「グッドプラクティス事例集作成！：
個別プロジェクトのプロセスを共有し、掘り下げよう」

セッション 2「キックオフミーティング！：
人社系研究の活かし方・伝え方・研究力の測り方を考えよう」

参加者数……84 名（URA34 名、研究者 24 名、事務系／図書館・博物館系職員 23 名、行政機関・資金配分機関 3 名）

開催報告 URL……https://res.skr.u-ryukyu.ac.jp/news_170427.html

第 4 回

開催日　● 2018 年 3 月 16 日　　幹事校　●京都大学

| テーマ |

人文・社会科学系研究の未来像を描く―研究の発展につながる評価とは―

| 基調講演 |

「人文・社会科学系研究評価の現在進行形」

三成　美保（日本学術会議副会長、奈良女子大学副学長・研究院生活環境科学系教授）

林　　隆之（独立行政法人大学改革支援・学位授与機構教授）

苅谷　剛彦（オックスフォード大学ニッサン現代日本研究所及び社会学科・教授）

｜パネルディスカッション｜

「研究の発展につながる評価とは―人文・社会科学系研究の未来形―」

パネリスト：田中　愛治（早稲田大学政治経済学術院・教授）
藤原　辰史（京都大学人文科学研究所・准教授）および上記 3 講演者

司　　会：出口　康夫（京都大学文学研究科・教授、戦略調整担当理事補、副プロボスト）

参加者数……141 名（URA ／ IR 等 58 名、研究者 42 名、大学職員 26 名、行政機関・資金配分機関 5 名、上記以外の研究支援職 3 名、その他 7 名）

開催報告 URL……https://www.kura.kyoto-u.ac.jp/act/337

第 5 回

開催日　● 2019 年 3 月 19 日　　幹事校　●早稲田大学

｜テーマ｜

人文・社会科学系研究を振興するファンドとその支援
―これからの社会を共創する人社系研究のために―

｜基調講演｜

「欧州における人社系研究を振興するファンドとその支援」

トム・クチンスキ（駐日欧州連合代表部・科学技術アドバイザー）
オルガ・グリッツァイ（アムステルダム大学・研究資金アドバイザー）

｜情報提供セッション｜

国の政策情報と各大学によるファンド施策の事例紹介

春山　浩康（文部科学省研究振興局振興企画課・学術企画室長）
前田　知子（科学技術振興機構研究開発戦略センター・フェロー）

各大学によるファンド施策の紹介

司会：白川　芳幸（早稲田大学 研究戦略センター・教授）

｜パネルディスカッション｜

盛山　和夫（日本学術振興会 学術システム研究センター副所長、東京大学名誉教授）

津田　博司（科学技術振興機構 社会技術研究開発センター・企画運営室長）

西尾チヅル（筑波大学 ビジネスサイエンス系・教授）

日野　愛郎（早稲田大学 政治経済学術院・教授）

トム・クチンスキ（駐日欧州連合代表部・科学技術アドバイザー）

オルガ・グリッツァイ（アムステルダム大学・研究資金アドバイザー）

ファシリテータ：島岡未来子（早稲田大学研究戦略センター・准教授）

参加者数……89 名（URA48 名、教員・研究者 7 名、事務系職員 16 名、行政機関・資金配分機関 12 名、その他 6 名）

第 6 回

開催日　● 2020 年 10 月 3 日・9 日　幹事校　●北海道大学

｜テーマ｜

人社主導の学際研究プロジェクト創出を目指して

～未来社会を拓く人文学・社会科学研究の現在と展望

○ 講演（10 月 3 日）

｜第 1 部　基調講演｜

「学際研究プロジェクトの未来に向けて

～オープンチームサイエンスと共創型プロジェクト」

近藤　康久（総合地球環境学研究所・准教授）

城山　英明（東京大学　公共政策大学院、大学院法学政治学研究科・教授／未来ビジョン研究センター・副センター長）

｜第 2 部　事例紹介｜

「人社系が参画するさまざまな融合・連携のかたち」

南　　了太（京都精華大学　人文学部・准教授／兼　京都大学　産官学連携本部・研究員）
高橋　そよ（琉球大学　人文社会学部　琉球アジア文化学科・准教授）
田口　　茂（北海道大学　大学院文学研究院・教授／人間知・脳・AI 研究教育センター長）
堂目　卓生（大阪大学総長補佐／経済学研究科・教授／社会ソリューションイニシアティブ（SSI）長）
山内　太郎（北海道大学　大学院保健科学研究院・教授／総合地球環境学研究所・教授）

参加者数……166 名
当日動画等 URL……https://u4u.oeic.hokudai.ac.jp/5242/

○ ワークショップ（10 月 9 日）
「人社系が参画・先導する学際プロジェクトとは」
講評：鈴木　一人（東京大学　公共政策大学院・教授）

参加者数……72 名

JINSHA 情報共有会について

フォーラム活動の一環として、2017 年度から研究支援者間でさらに実践的な情報共有を促すため、JINSHA 情報共有会として、人文・社会科学系研究に関する中規模の会合を開催している。（JINSHA＝**J**apan **I**nter-institutional **N**etwork for **S**ocial Sciences, **H**umanities and **A**rts）

（所属、職位等はフォーラム開催当時）

第 1 回

開催日　● 2017 年 6 月 30 日　　幹事校　●京都大学

｜情報共有・議論内容｜
〈講演会〉
講師：佐和　隆光先生（前 滋賀大学学長）

演題：「文系軽視・理系偏重が日本を滅ぼす」
参加者数……20 名

第 2 回

開催日　● 2017 年 9 月 15 日　　幹事校　●早稲田大学

｜情報共有・議論内容｜

〈事例紹介とワークショップ〉
「人文社会科学系研究者をプロデュースする：個が輝く取組み」
第一部：大学等における事例紹介（早稲田大学、京都大学）
第二部：ワークショップ
①各大学で行っているプロデュース例
②プロデュース能力を向上させるために何が必要か
参加者数……20 名

第 3 回

開催日　● 2017 年 12 月 1 日　　幹事校　●筑波大学

｜情報共有・議論内容｜

「TSUKUBA index Web 公開記念シンポジウム」
〈筑波大学人文社会系研究発信月間〉
参加者数……42 名

第 4 回

開催日　● 2018 年 6 月 29 日　　幹事校　●大阪大学

｜情報共有・議論内容｜

「研究推進・支援に役立つ資料リスト 2018 を作ろう
―視野を広げ、より良い仕事をするための知識とは」

【「人文・社会科学系分野を入り口に」編】
参加者数……28 名
成果報告
https://www.ura.osaka-u.ac.jp/urasystemdevelopment/20180920.html

第 5 回

開催日　● 2018 年 9 月 20 日　　幹事校　●琉球大学

| 情報共有・議論内容 |

「SDGs のその先へ～社会とアカデミアの応答を生み出すための 5 つの質問～」
〈RA 協議会第 4 回年次大会　E-2 セッション〉
http://www.rman.jp/meetings2018/E2.pdf
参加者数……約 60 名

第 6 回

開催日　● 2019 年 7 月 26 日　　幹事校　●京都大学

| 情報共有・議論内容 |

〈レクチャー＆ワークショップ〉
「研究の発展につながる評価とは～研究評価の未来を洞察する～」
参加者数……約 40 名
開催報告……https://www.kura.kyoto-u.ac.jp/act/621/

第 7 回

開催日　● 2019 年 9 月 3 日　　幹事校　●京都大学

| 情報共有・議論内容 |

「研究の発展につながる評価とは～
『責任ある研究評価・測定（Responsible Metrics)』と URA にできること」

〈RA 協議会第 5 回年次大会　B-2 セッション〉
http://www.rman.jp/meetings2019/B2.pdf
参加者数……約 100 名
開催報告……https://www.kura.kyoto-u.ac.jp/act/613/

第 8 回

開催日　● 2020 年 9 月 18 日　　幹事校　●北海道大学

｜情報共有・議論内容｜

「異分野融合研究・プロジェクトにおける URA の役割について考える」
〈RA 協議会第 6 回年次大会　F-1 セッション〉
http://www.rman.jp/meetings2020/F-1.pdf
参加者数……80 名

第 9 回

開催日　● 2021 年 2 月 5 日　　幹事校　●京都大学

｜情報共有・議論内容｜

「責任ある研究評価を考える
── 大学・研究機関にとっての責任ある研究評価とは ── 」
https://www.kura.kyoto-u.ac.jp/event/20210205/
参加者数……165 名

人文社会系 URA ネットワーク幹事校と組織

（2021 年 3 月現在）

大阪大学　経営企画オフィス URA 部門

京都大学　学術研究支援室（KURA）

筑波大学　URA 研究戦略推進室／ ICR

早稲田大学　研究戦略センター

琉球大学　研究推進機構研究企画室

横浜国立大学　研究推進機構

中央大学　研究支援室

広島大学　学術・社会連携部　URA 部門

北海道大学　大学力強化推進本部　研究推進ハブ　URA ステーション